

■発表テーマ	身体に負担をかけない移乗方法の獲得	
■副題		
■法人・事業所名	社会福祉法人瑞祥 特別養護老人ホーム ビラ・オレンジ	
■職種・発表者 機能訓練指導員・酒井由紀子	機能訓練指導員・井篁亮太	
	介護職員・森翔 田中美奈子	
<p>&lt;取り組んだ課題&gt;</p> <p>移乗は日常的に行う介助のひとつであり、腰など身体への負担が大きい介助技術でもあります。当施設においても介護職員の身体への負担軽減を図るため、定期的に移乗介助の研修、トランスファーボードの活用をするなどの取り組みを行ってきました。しかし、介護職員から身体疲労を耳にすることや介助方法の問い合わせは変わらずみられました。移乗方法を検討していく中で、利用者様に適した移乗方法が分からなかったりトランスファーボードが上手く活用できていなかったりする介護職員が多いように思われました。また、利用者様の身体機能を活かした介助やノーリフト介助への意識が低く、力に頼った方法が中心となっているように感じました。そこで、介護職員の移乗介助への認識を確認し、課題を見出すことで身体に負担をかけない移乗方法の獲得を目指しました。</p> <p>&lt;具体的な取り組み&gt;</p> <p>①介護職員が行っている移乗介助の一連動作を確認</p> <p>介護職員が移乗介助を行っている現場に行き、一人介助、二人介助の一連の動作を確認し、課題を見出すことができました。</p> <p>②移乗方法の研修</p> <p>介護職員 53 名を対象に、移乗介助の基礎の説明、実技研修を実施しました。移乗介助の基礎を説明し、機能訓練指導員が介護職員を移乗介助することで介護職員の身体の使い方のイメージを掴んでもらいました。また、いろいろな移乗方法を紹介しました。</p> <p>③トランスファーボードの使用法の研修</p> <p>各フロアにてトランスファーボードの使用法を介護職員と共に確認し、実際、利用者様に使用し、機能訓練指導員がアドバイスをを行いました。</p> <p>&lt;活動の成果と評価&gt;</p> <p>①介護職員が実際に行っている移乗方法を確認することで介助方法の課題を見出すことができ、その内容を研修に活かすことができました。研修を行ったことで、介護職員から「簡単に移乗ができるようになった」、「身体への負担が減った」などの声もみられた。</p> <p>②トランスファーボードの使用法のコツを掴み、簡単かつ楽に移乗ができることが実感でき、多くの利用者様に活用されるようになった。</p> <p>&lt;今後の課題&gt;</p> <p>介護職員の移乗方法を確認することで介助方法の課題を見出すことができ、研修に活かすことができ負担を軽減することに繋がりましたが、今まで行っていた介助方法を変更することに難しさを感じる職員もみられます。今後も介護職員の意見を取り入れ、定期的に移乗方法の研修を行い、利用者様、職員ともに安心、安全に過ごせるよう努めていきたいと思っております。</p>		